

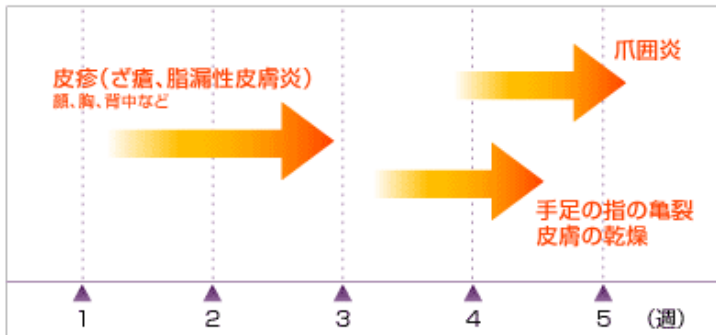
皮膚障害の予防方法

小山記念病院 化学療法委員会

◆◆ 皮膚障害とは？ ◆◆

皮膚障害とは、抗がん剤治療によって、手や足の皮膚の細胞が障害されることで起こる副作用のことです。ざ瘡様皮疹・皮膚乾燥・爪囲炎の症状発現が多いとされています。

◆◆ 皮膚障害が起こりやすい時期は？ ◆◆



アービタックス[®]、ベクティビックス[®]による皮膚障害は 投与開始1週間後から 発現し始めるとされています。ほとんどの症例で、5週間程度の期間中に種々の症状が順に発現しています。

【予防的に使用する保湿剤の例】



【症状発現時に使用するステロイド】



顔に塗る

顔以外に塗る

症状の発現予防には手足の保湿が最も重要となります。右写真の薬剤を使用することが推奨されています。1日に2～3回の使用をお勧めします。

1回の使用量は右下のイラストを参考にしてください。

手のひら

1FTU が両手の手のひらに塗る量です。

足の裏

1FTU が片足の裏に塗る量です。

症状が出現してきたら（発疹・発赤、皮がむけた等）下記の軟膏（ステロイド剤）を塗って対処してください。

※ 顔にはロコイド[®]、顔以外にはアンテベート[®]

その際も、保湿剤の使用は継続して構いません。塗る順番は、保湿剤 ⇒ ステロイドが推奨されます。

◆◆ 症状が辛いときは… ◆◆

症状がひどい場合（痛くて手を使えない、歩きづらい等）には、すぐに病院にご連絡ください。服用している抗がん剤の休薬（使用中止）が必要な場合があります。

成人の人差し指の先から第1関節まで軟膏剤やクリーム剤を載せた量が1FTU
(軟膏剤、クリーム剤：1FTU=約0.5g)
※チューブの口径を5mmとした場合



医療法人社団善仁会小山記念病院
Tel 0299(85)1111 (代表)